

## 11月定例山行

11月6日

### 鷹巣山～大佐山（山県郡芸北町）



参加者 20名

CL 宮木一民 SL 熊谷 修

三重成、鬼武、大久保、佐々木敏、熊野、坂本、三浦美

西井、中島、中野美、中野勝、永谷、若木、中谷、上別祖

八木、[会友] 中島、三浦

コースタイム

県庁北口 7:20→西風新都 IC～戸河内 IC→野花の館 9:45→県境広場 10:50→

鷹巣山 11:00→県境広場 11:10→三方辻（行動食） 12:20→大佐山山頂 14:30→

大佐山スキー場駐車場 15:35→17:25 県庁北着

○

今回の山行で、いくつかのすばらしい体験を得た。その内の4点を書いてみようと思う。

1. トニーザイラーになった気分、（大佐山スキー場入り口までの下山1時間）

あたり一面の銀世界で、まったくのバーจินロードだ。今日の天候はめずらしく晴。

風もなくおだやかだ。人の踏み入れていない雪面をギシギシといわせながらスキー場を下りていく。あちこちで歓声があがる。登山靴をはいて大佐山スキー場を初すべりしているような錯覚。恐らく一生かかってもこんな体験はできないだろう。

2. 自然の急変に戸惑う自然

自然界は、秋冬の同時到来で戸惑っている様子が伺えた。

① 木々の葉は、紅葉する間もなく、落ち葉は、障子紙に張りついた様に、雪の上にある。

② けもの達の新しい足跡も見た。クマ、イノシシ、テンなどのそれ。エモノが視界から消え、困っているに違いない。

③ 大佐山スキー場のふもとでは、人口雪の製造中。まったく自然の急ペースについて行けてない。

3. 晴れた青空、すんだ空気、見晴らしのよい山々、久しぶりの好天に恵まれ、大佐山山頂より正面には臥龍山、掛頭山、はるか向こうに深入山、恐羅漢山が見える。東方向では鷹巣山、弥畝山（島根県）、八幡高原191スキー場、西方向へは、天狗石山、高杉山、阿佐山、毛無山などが見えた。今までのぼった山々はまたいらっしゃいよと呼んでいるような気がした。

4. すばらしい「やまぼうし」の仲間たち

① 実は戸河内インター付近で、突然マイクロバスが動かなくなるというハプニングがあった。宮木さん、中島さんの機敏な対応で代替マイクロバスを手配頂いた。ロスタイムをミニマムにし、何とか予定のコースをこなせた。感謝、感謝。

② 20～30センチの新雪山行は歩行が大変である。宮木さん、中島さん、佐々木さん等が交代のトップ引きであった。

足を高く上げて、雪を踏みしめ固めながらの歩行は大変だったと思う。

- ③ 私だけがスパッツを所有していなかった。県庁前で佐々木さんよりも一つあるからと貸して頂いた。雪山山行ではスパッツの重宝さを体感した。山行の先人達は、自然界にいかに対応するか、このスパッツの効用は貴重な体験の積み重ねのシロモノであると納得した。早速購入に走りたい。

これら①～③を実行に移すには大変なことであるのに、山行の先輩たちはいとも簡単にやってのける。これはすばらしいことだ。「やまぼうし」というよき仲間に入れて頂いて感謝している。実り多き1日であった。

(記 西井 博光)

○

中国自動車道をおり、戸河内 IC の料金所のすぐ近くでバスがエンジントラブルで動かなくなるというハプニングが起こった。

さい  
をして



### 忘年山行(向山)中止

12月7日8日予定の忘年山行は参加者が少なく、残念ながら中止となりました。

通のバスに乗り換えた。

野花の館を少し入った所で下車。林道はかなりの積雪で大佐山を下山してバスに乗るまではずっと雪を踏みつけての歩行であった。

三方峠で行動食(12:00過ぎ)をとり、大佐山山頂まで頑張って登る。好天氣に恵まれ寒さは全く感じない。しかも、ぐるり360度芸北の山々の素晴らしい展望を堪能する。

大佐山スキー場の中を各自、おもしろいおもしろい下山。誰も歩いていない所をザックザックと歩くのはとても気持ちのいいものだ。途中、なんとスキー場を横切る熊の足跡を発見!! しばらく下ると次はイノシシの足跡である。この時期にはめずらしい雪中山行であった。

(記 宮木一民)